

慢性透析患者における肺炎球菌ワクチンの重要性

菊地 勘

慢性透析患者の死亡原因は 2022 年以降、感染症が第 1 位となり、2024 年には全死亡の約 25%を占めた。この感染症死亡のうち約半数は肺炎であり、依然として重要な死亡原因である。

また、2024 年の慢性透析患者の全死亡に占める肺炎死亡割合は、70 歳未満で 6.5%、70 歳以上で 13.0%と、高齢透析患者では約 2 倍と高率であり、ワクチン接種による予防が重要となる。

慢性透析患者では、ワクチン接種により重症化や死亡のリスクが低下することが報告されており、積極的な肺炎球菌ワクチン接種が推奨される。